

もっと知りたい
ふるさと

31

松代騒動は 上山田村から

松代騒動については、昔から数多くの文献や研究がなされてきている。これらによると、この騒動は明治三年（一八七〇）十一月二十五日から始まり、松代藩領の全域と近接する他藩領を巻き込む四郡にわたって起きた。

発端となったのは、二十三日に上山田村へ「石代納は金十両に初四俵半相場、藩札は額面の二割五分引き通用」とのお触れが届いたことである。当時、村では弥勒寺地籍の山地開発が行われており、工事完成前に労賃は藩札で支払われていた。そのすぐ後にお触れが出されたことが、村中に

衝撃的な話題となつて広がった。更に民衆には、藩政の数多くの失政による混乱に対する不満があり、改善要望が大きかった。これらが、嘆願行動への導火線になった。開発に携わった人たちは、小前総代宅へ赴き、藩への嘆願を依頼した。二十五日に「名主三人と小前総代が藩へ行つており、夕刻には結果がわかる」ということで待つていたが、なかなか帰つてこなかった。帰村が遅いのは「藩がお触れの取り消しを渋つていゝのだ」「捕らわれてしまったのではないかなどと、議論は高まつた。村人たちも不安に

かられ、手に手に松明を持って集まつて来ていた。終始議論に加わつていた小平甚右衛門は「もう我慢はこれまでだ」と直訴の人々を集めるため、丸山に登り半鐘

を連打した。その後、女沢・新山・力石・上平・網掛・上五明を騒ぎ立て、集まつた人数は三千人に達していた。そして、力石に戻り、二手に分かれ、松代に向かつて出発し、城下の郷宿の伊勢屋伊兵衛宅で合流した。この間、近隣の村々から合流した百姓たちはどんどん膨れ上が

り、その数は二万人に達した。伊勢町付近で頭立の小平八郎左衛門が来て「願いの筋があれば何なりと申し立てるの

で穏やかにするように」「知藩事が大英寺へ入られたので、そこで控えているように」と伝えた。甚右衛門たち代表者は藩札についてだけでも嘆願しよう」と大英寺へ赴き控えていた。やがて、村役人が来て「石代納は金十両に初四俵半相場、藩札は額面通りの通用」であることを伝えた。その後、

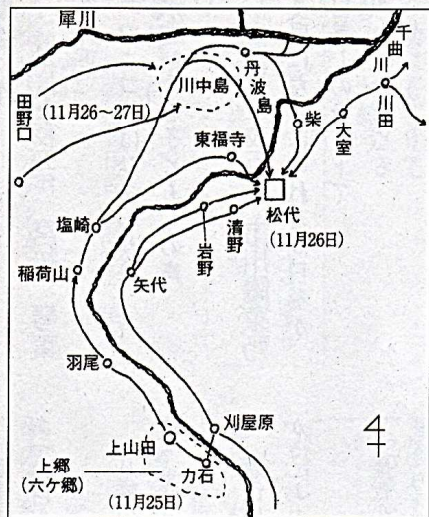
この騒動の検挙者は六百三十人、斬首は最終的には甚右衛門一人になった。これは首謀者とされた甚右衛門が罪を他に及ぼさないように一人で被つたからといわれている。甚右衛門は、明治四年五月二十六日「鳥打峠」で処刑された。処刑にあたり「子ども

の教育はたいせつなり」の遺言を残したといわれている。頌徳碑及び遺言碑は、上山田村字羽場山伏塚の東麓の地に建立されている。

文責 山崎博也

参考資料
「上山田公民館成人講座（地域の歴史と古文書を学ぶ）松代騒動」
柳澤 哲

「上山田公民館成人講座臨地研修 松代騒動」
鎌原賢司・宮原英夫・宮原哲雄
『上山田町史』一九六三年
『副読本 上山田の風土』一九八七年



松代騒動の動き



頌徳碑及び遺言碑